

プロローグ

夜間に灯す紅の残響、希望奏でる魔法と流星の交響！

黒き絶望を朱に染め上げる深紅の救世主！

魔法少女フレイ、ここに参上

残念だったな誘拐犯。この私が来た以上、貴様は残火と共に散る運命にある！
はああつ！

……ふう。なんとか片づいた、な

しかしシスター達が決めたとはいえ、あの名乗り口上、どうにかならんものか

……おっと

よう、その少年

随分と怯えた顔をしているな

まるで迷子になった幼子のような……そんな顔だ

頼りなくて頼りなくて、とても男とは思えんほどに情けない面だな

それに小鹿のように震えている

なんだなんだ、男のくせに根性のない奴だ

いくら拐われそうになったからといって、そんなに震え上がるものなのか？

軟弱で貧弱で意気地なし……親の顔が見てみたいものだな

……なに？親どころか家もない？

……それに、偉えらそうなこと言ってるけど、あんたも子供こどもだらって？

子供が子供に説教せつぎょうするな、か

フフ……フフフ……アハハハハハ！

んん？何がおかしいのかって？

いやいや、お前まへのことを笑わらったわけではないんだ

私の弟子にな、お前と似たようなことを言いった奴やつがいたんだ

そいつは今いまはもう自立りぞくしているんだがな、私の元もとにいた時にはたいそう生意氣なまいきなガキこどもだった

お前と同じように反発はんぱつしてきて、子供のくせに生意氣なまいきよ！なんてのたまってきたんだ

私わたしより背せの低いちんちくりんがだぞ？

ついそれを思い出して、笑わらってしまったんだ

すまない、悪氣わるきは一切いっさいないんだ

と言いっても信用しんようしてもらえなさそうなので、行動こうどうで示しめすでしょう

……フフ、そう身構みがまえるな。とって食くったりはしないさ
ただ、こうするだけだ

（一瞬で距離を詰め、主人公を抱き締める）

……さつきは好き放題言^{ほうだい}ってすまなかったな

ただ、あのままではお前は話^{はな}すこともままならなかっただろうからな
少しばかり発破^{はっぱ}をかけさせてもらった

お前のことも、お前の親のことも貶^{おとし}めるつもりはない

むしろ、誘拐犯^{ゆうかいはん}に必死^{ひっし}に抗^{あらが}っていたお前は勇敢^{ゆうかん}だよ

勇気^{ゆうき}ある子だ。誇^{ほこ}っていい

お前の親の代わり^かに、私^わがお前を褒め称^{ほめた}えよう

私^わが来るまでよく頑張^{がんば}った。お前は凄^{すご}い子だ。立派^{りっぱ}な男だよ、お前は

……おっと、泣いているのか？

私^わに褒め^ほめられたのがそんなに嬉^{うれ}しかったか、ん？

フフ、強^{つよ}がるな。私^わが来て安心^{あんしん}したんだろう

私の前では強^{つよ}がらなくていい

素直^{すなお}に、正直^{しょうじき}に、ありのままの自分を見せてみる

私はそれを肯定^{こうてい}してやれる

私は見た目は幼^{おきな}いかもしれないが、中の器^{うつわ}は子供のそれではないからな
意地^{いじ}っ張^ばりのお前だって受け入れてやれる

ん、どういことかって？

そのままの意味だ

私は見た目通りの年齢じゃない、ということだ

簡単に言ってしまうば、お前よりも年上のお姉様、といったところかな

嘘じゃないさ

お前よりもずっと強いし、頭もいいし、器も広いんだ

それに孤児院だって経営してる

ふふん。どうだ、凄いだろう

……全然信じてないって顔だな

ならば私の後についてこい。私が嘘つきじゃない証拠を見せてやる

そうだな……私の言っていることが嘘だった場合、お前の言うことを何でも一つ聞いてやろう

だが逆に私の言っていることが本当だった場合は……

お前は今日から私の家族になる。そんなのはどうだ？

どうだ、乗るか

……よし、そうこなくてはな

そういう潔いところは嫌いじゃないぞ

「……最近勝負に乗ってくる奴が少なくて退屈だったんだ

ま、その勝負も一瞬で終わるがな。無論私の勝利という形で

なに、そうはならない？私が嘘つきだと証明して、自分の部下にしてやるって？

フフ、それは楽しみだ

お前が私を部下にして何をさせるつもりなのか、楽しみにしておこう
だったら、ほら

(手を差し出す)

私を部下にするんだったら、今の内に手綱を握っておくといい

離れないよう、しっかりと掴むんだぞ

……ああ、そうだ。お前が勝負に勝ったら、お前が私の主様だ

主様は部下の手を決して離さない。そうだろう？

よし。じゃあ早速、手を繋いで帰ろうじゃないか

お前の新しい家に、な

1話

ふー、やつと落ち着いたな

子供という生物は一見可愛らしく見えるが、その内側にはとんでもない魔物が潜んでいる

お前はそんな風に考えたことはないか？

……フフ、あるよな

奴等は身体は小さいくせに無尽蔵の体力を持ち、常識を己の気分で覆す
奴等には大人の都合など一切関係ないんだ

出会った頃のお前はかなり物分かりのいい子供だったのだと再認識させられるよ
そうしてひねくれることなく今の歳まで成長してくれたこと、感謝している

まあ、私の育て方が良かっただけのことかな？

これまでの反省を生かし、厳しさ半分甘やかし半分で育てた甲斐があったというもののだな

んん？厳しさ9割情けが1割の間違い？

はて、そうだったかな

まあ無事に成長した今となってはどちらでも大差ないだろう

こーやって、私やシスター達が経営する孤児院を手伝ってくれているのだからな

シスター達もお前にはいたく感謝かんしゃしていたぞ

子供達の世話せわをしてくれてありがとう、とな

お前もまだ子供なのにな

子供扱こどもあつかいするな？フフ、すまんすまん

もう何十年も生きている私からすれば、背せが多少伸たびようと子供には変わらないんだ

ま、かくいう私もこんな身みなりをしているわけだから過ぎたことは言えんがな

魔法を極きわめる過程かていで肉体の老化ろうかは無視むしできない問題問題だったからな

こうやって肉体の成長せいちょうを止めるしかなかったんだ

ま、そのせいかお前のように言い寄よってくる男まれが稀まれにいる

たいてい内情ないじょうを知ると去さっていくがな、お前のような物好きものず以外は

……そんな物好きものずの熱意ねついに押おされて交際こうさいに至いたった私も、物好きなのかもしれんな
その、今日も……なんだ

もし我慢がまんできなくなったら、私の部屋に……っと、マズい！

奴等やつらが起き始めたぞ！

今日は暑あつくてあまり外で遊あそばせられなかったからな

その分体力ぶんたいりきが残のこっていたか

なんとか寝かせて被害を最小限に……と、今度はなんだ！熱が出た！？
さつきまでそんな様子は見られなかったが……ええい！

やはり子供という生物は分からん！

（近くのシスターに対して言う）皆、すまんが水と布を取って来てくれ！

食べやすい物も頼む！なければ買い出しに行ってくれと助かる

お前は私と共に熱のある子供達を運ぶぞ

はあ……奴等の面倒を見ると、おちおちゆつくりと話もできないな

だがまあ、奴等が寝ついたら……その、私の部屋に來い

そこでゆつくりとした時間を過ごそう

お前が望むなら……そういうことを、してやってもいい

お？えらく気合いが入ったようだな

そんなに私と一夜を共にしたいか、不届き者め

……二つ返事で即答されるのも返しに困るな
まあいい

とつとついつらを寝つかせて、穏やかな時間を過ごそうじゃないか

よろしく頼むぞ、私のこ……恋人、よ

2話

……おはよう

昨日は息巻いていた割には、随分と早く果ててしまったようだな

終わった瞬間、糸が切れたかのようにぱったりと寝込んでしまっていたぞ

んん？なんだ、言い訳か……と、そ、そんなに落ち込むな

お前も疲れていたんだろう

それに私は快樂という感覚を魔法によって遮断している

魔法に打ち込んでいた時は、そんな感覚は不要だと考えていたからな

その時の魔法が身体に馴染んでしまっているせいか、今も快樂は遮断されたままだ

別に私も不満があったわけじゃない

むしろお前くらいのペースの方が、私も安心できる

魔法一筋だった分お前以外との経験はないし、そういうことに関しては知識をほと

んど持ち合わせていない

お前と共に成長し、お前と共に幸福になりたい

私はいつもそう考えているんだ

……同情ならいない？

お前、私はただ単に本心をだな……つと

(フレイの元から紙が落ちる)

おっと、すまない

(紙を拾う)

ん？これか？

これは調査書だ。とある人物に対しての、な

なんだ、気になるのか。別に見せても構わんが……決して外部にはこの情報はもらすなよ

私が極秘裏に調査していることだからな

ほら、これだ

(紙を見せる)

この国の王子、その悪行についての調査書だ

まあほとんど揉み消されているが、私が確認しただけでもざっとこれだけの量だ

この国の未来が思いやられるな

ん、なんで私がこの男の調査をしているのかって？

話せば長くなるが……簡単に言えば、奴隷の子供達のため、だな

私が夜な夜な街の平和を守っているのはお前も知っているとと思うが、ここ最近奴隷の子供達が罪人として連行される事案が多くてな

その理由を調べるため調査をしていると、とある事実気づいた

その奴隷達の主は決まってこの国の王子、エルスという人物なんだ

どうやら奴は自分の罪を奴隷達に押しつけているようだな

その尻拭いのために、奴隷達は捕まっているらしい

……酷い話だろう？私もそう思う

だからこそこの男を止めなければならない

出会った頃のお前のような、悲しい目をした子供を増やすわけにはいかないからな

それに弟子に上手く愛情を注いでやれなかった分、その罪滅ぼしとして他の奴等に愛情を注いでやらんな

弟子からもそう念押しされている

というわけで、私は今夜奴とコンタクトをとることにした

もちろん偶然を装ってな

……危険？なんだ、私を心配しているのか

まあ確かに私の見た目は一見非力な少女だからな
心配したくなる気持ちも分かる

しかし私は元宮廷魔法使い

今は子供達にウケのいい魔法少女、とかいう存在として振る舞っているが、実力は一切衰えていない

お前の心配が拭えないと言うのなら、この都市ごと落として見せようか？

（主人公がいや、信じるよと引き気味に言う）

フフ、それでいい

お前は私がいけない間、子供達の面倒を見ておけ

何かあった時はお前が皆を守るんだ

というか、別に私は争い事をするつもりはない

ただ奴隷達を解放してもらえよう交渉するだけだ

多少こじれることはあるかもしれませんが、大事にはならないはずだ

件の王子は夜に動き出すらしいからな

私も同じ時間帯に動く

だから今日は遅くなるかもしれん

その事はシスター達にも伝えてあるが、遅くても日を跨ぐ頃には帰るようにする
だからお前は心配するな
いいな？

……そう不安そうな顔をするな

お前の恋人は、子供達を守る最強の魔法少女なんだ
何も心配はいらない

それとも、アレか？

今日は一緒に寝てくれる人がいなくて寂しいとか、そういうことか？

なんだ、それならそうと早く言え

私が外出するまでの間、ずっと抱き締めておいてやる
ほら、こっちに来い

この私がお前の寂しさを埋めてや……なに、違う？

もう分かったから離れて？

そういう押しに弱いところは変わっていないな

そこはむしろ僕が抱いてやる、くらいの気迫を見せてもらいたいものだがな

ま、今のお前にはその段階はまだ早いか

それにお前にそんなことを言われては、私も固まってしまうかもしれないな

歳こそ重ねているものの、恋愛の経験はお前以外無いのだから……と

奴等が起き出したか

忙しない足音がここまで聞こえてくる

仕方ない、話はここまでにして私達も朝食をとるとしよう

朝食は皆でとるのが決まりだからな

ほら、お前も早く起きて準備をしろ

子供という生き物はお前を待つてはくれんぞ(優しく笑いかける)

3話

はあー……

まさかこんなことになるとは、な

昨晚さくばんの交渉こうしやうが無事ぶじに済すんだのは大変喜たいへんよろこばしいことなんだが……なんというかあれだな

違和感いわかんの一言ひとことに尽つきるな

この国の王子様が子供に混まじって卓たくを囲かこんでいるというのは
ん、なんでこうなったかって？

いや、昨晚偶然さくばんぐうぜんを装よそおって、奴と路地裏ろじうらで邂逅かいこうを果たしたまでは良かったんだ

その後、奴隷達ごどれいたちの解放かいほうの約束を取りつけたのもいい

だが、そこで奴が条件じょうけんとして出したのが……この孤児院こじいんでの暮くらしを三日間体験たいけん
させてほしいというものだったんだ

……まあ、なんでっていう感想かんそうしか浮かばないよな

私もその条件じょうけんを聞いた時はお前と同じ反応はんのうをしたよ

もちろん真意しんいを問といたりカマをかけてはみたが、どうやら奴は本気らしい
もちろん私もシスター達も警戒けいかいはしているが、今のところ目立めだった動きは見せてい
ない

それどころか中に混ざって、子供達の遊び相手をしてやってるようだ

助かるといえば助かるが……やはり不_ふ信_{しん}感_{かん}しか残_{のこ}らないな

私はてつきり交_{こう}換_{かん}条_{じょう}件_{けん}として、私の魔法の力を軍_{ぐん}事_じ目_{もく}的_{てき}で要_{よう}求_{きゅう}してくるのではないかと考えていたのだがな

人に危_き害_{がい}を加_くえ_わること以外であれば多少は手_てを貸_かしてやろうと思っていたが、どうやらアテが外_{はず}れたようだ

何_{なに}が狙_{ねら}いかは分からないが警_{けい}戒_{かい}するに越_こしたことはない

お前_{まへ}も何_{なに}か気_きになることがあれば知らせてくれ

……ん、シスターがお前のことを呼_よんでるぞ

行_いってやれ、あの王子は私_{わたし}が見_み張_はっておく

……何_{なに}の用_{よう}だ。あなたが出_でした条_{じょう}件_{けん}は孤_こ児_じ院_{いん}で暮_くら_らしの体_{たい}験_{けん}だろう？

子供達と遊_{あそ}ばなくていいのか？

子供じゃなくて私と遊_{あそ}びたい？

フン、あいにくと私には恋_{こい}人_{ひと}がいる

あなたとは遊_{あそ}べないな

分_わかつたら早_{はや}く離_{はな}れてもら……ッ！

(エルスがフレイの尻_{しり}に手_てをやる)

ほう、元宮廷魔法使いにそんな態度を取るか

よほど命が惜しくないに見える

……なに？条件を忘れていないかの確認？

奴隷達を解放する代わり、この三日間の間私の身体を抱かせる、だったか？

（エルスが頷き強く尻を掴むが、その腕をフレイが掴む）

それは子供達が寝静まった頃、という条件もあったよな

王子ともあろう者がその約束を破るわけではあるまい

私の尻を掴むその手はなんだ？言ってみろ

不可抗力？ほう、そうきたか

ならばこれも不可抗力ということでもよろしいかな

このままでは不慮の事故であなたの手首を砕いてしまうかもしれないな
さて、どうしようか

（微かな沈黙の後、エルスは手を離す。そして歩き出す）

ふむ、賢明な判断だ

そんなに私に触れたのであれば、皆が寝静まった後になってくれ

まあ、私の身体は既にあなた以外の男のモノだがな

それを理解したなら早く行ってくれ

子供達に怪しがられるぞ

……フン、何がまた後で会おうだ。気取りおつて

ああいう傲慢な人間には多少灸を据えてやらんと、な

（場面切り替わり 夜 食卓）

ほら、お望み通り来てやったぞ王子様。満足か？

フン、王子ともあろう方が随分と下卑た笑みを浮かべるものだ

とても王族の人間とは思えないな

で、なんだ？私に何をするつもりだ

……ハメ倒して俺の女にする、ね

フフ、まだ出会って間もない私にそんなことが言えるのだな、あなたは

その傲慢さには恐れ入る

だが、それが叶わないと知った時、あなたのプライドはどうなってしまうのだろうか

子供のように駄々をこねられても私にはどうすることもできないが

なに、そんな心配はいらない？

心配するならこれから開発かいはつされる自分の身みを心配しろ、だと？

そうか、忠告ちゆうこくどうもありがとう

ではその言葉ことば通り今から私の身体からだを開発するのかな

この数十年間かいしゅうかん快樂らくを感じていない私の肉体にくたいを

触さわりたいのなら好きに触ふれるといい

(エルスがフレイの後ろに回り、胸を揉みしだく)

おっと、まずは胸か

私の胸はそれなりの大きさだとは自覚じかくしているが、女好きのあなたには物足ものたりない
のではないか？
いかがかな

なに、どんな大きさだろうと関係ない？

どんな女おんなも開発してしまえば胸だけでイキ狂くるうようになる、ね

それは凄すごいな

まあ私からするとまるで他人事たにんことのようにしか聞こえないが

それはどうしてかだと？フフ、続けていればやがて分かる

あなたの努力むが無駄むだだということもな

では思う存分ぞんぶん揉みしだいてくれ

あなたの気が済むまで、な

(再開)

ふーむ、そろそろ三十分といったところか

王子様は随分と私の胸にご執心のような

一心不乱に私の胸を揉みしだいておられる

まるで盛った獣のようだ

私の胸を揉んだり持ち上げたり、寄せたり撫でたり

なんだ、もしかして王子様は陶器でも作っているのかな

とても私の身体を開発しているようには感じないが

ん？次は直に触れる？

別に構わないが……あまり衣服は乱さないでほしい

あとで戻すのが面倒だからな

ほら、分かったら存分に触れていいぞ

色狂いの王子様……んっ

ほう、今度は乳首か

先ほどまでは丹念に乳首の周りを撫で回していたものな
ようやく本番というわけか

とは言つても、先ほどと何も変わらないと思うぞ

ただ無意味に乳首をこねくり回し、ただ無意味な時間を過ごすだけ

それでいいなら構わんが……はあ、この行為の何が楽しいのやら……んんっ

今度は乳首を掻いたり引っ張ったり……そんなやり方があるんだな

感心するよ

私が普通の女であれば、とくに息を荒くし喘ぎ声をもらしていたんだろうな
だがあいにくと私は普通じゃない

あなたも気がついてるのだろう？

私に快樂を与えられていないことを

さっきの言葉の真意はそれだ

私の肉体は快樂を遮断するようになっている

不要な感覺だからな

今となつては自分でその性質をコントロールすることもできない

つまり、私の肉体が快樂を享受することはない

それは理解してもらえただろうか

……ふむ、今の話を聞いてもなおやめるつもりはない、か

是非ともその根氣強さを国を良くするために使ってほしいものだが、それは難しい話か……ん、ふっ

なんだか快樂というよりも、くすぐったさの方が強い気がするが私をくすぐってそんなに楽しいか？

王子様の考えることはよく分からんな……う、ん

今度は脇を撫でたり腹を撫でたり、見境のない男だそれに何の意味があるのか私にはさっぱりなんだが

私の恋人はそんなにいやらしい触り方はないからなん、じきに分かる？
ふーむ、そうか

で、その意味が分かるのはいつ頃になるんだ
そろそろ退屈で眠ってしまいそうなんだが

毎日子供達の世話をしている人間の身にもなってほしいものだ……んっ！

む、また乳首を弄るのか

無駄なことをよくやる

……なに、準備が整った？

そうか、よく分からんがそれは良かったなであればさっさと終わらせて……あんっ！

……ん？なんだ、今は
くすぐった過ぎて思わず声がもれてしまったか

確かに快楽は遮断しゃだんしていても、くすぐったさは遮断しゃだんしていなかったもの、なっ！？

………んん？どういことだ

乳首をつねられた瞬間しゅんかん、急に胸に刺激しげきが走ったが……電流でんりゅうでも流して快楽を引き

出そうという魂胆こんたんか？

そんなことはしていないって……ならば今の刺激しげきは一体何だ
あなたが何らかの方法で電流を流したのだろう
それ以外には考えられな……あはっ！？

え？また、つねられた瞬間しゅんかんに電流が………なんで、んううっ！
は………は？なんだ、これは

一体何いったいなにが起こって、んひいつ！？

お、おい、ちよつと待て
何かおかしい

こんな刺激が、私の身体からだに流れるわけが………あっ！！？

い、いったん胸から手を離せはな

貴様きさま、私の身体に何を、あんんっ！

お、おい！だから一度手を離せはなと言っている！

何かおかし、ひああっ!？

ち、乳首を弄いじられると、電流ながが流れて、んんっ!

こ、これは一体どういうことだ!

私の身体は快楽を遮断しやだんして……あああっ!？

ち、乳首弄いじるのをやめろ!

乳首の先端せんたんがピンと張はって、んひい!？

な、なんだこれは!？

か、身体からだが勝手かってに反そって、腰こしが、浮うく……!

あ……は……あうっ!

乳首、引ひつ搔かく、な

カリカリされると、先まっぽが、ジンジンして……あっ!あっ!？あ、んんっ!

フツ、フツ

なん、だ。な、なにが、起おこった

乳首を弄いじられる度たびに、電流でんりゅうが走はって……身体からだがビクッとして……これはまるで、

快楽を感じた時の反はん応のうみたいではないか

そんなことがあるわけ……あうっ!？

ま、待て

乳首つまむ、な。いま、身体、変で……あああっ!

や、やめ、ろ

乳首のところ広ひろげて、引ひつ搔かく、な

それをされると、ち、乳首に、刺激が集中して……あはっ！？
ちよ、ま、待て、やめ、んうう！

あっあっ、あああっんっ、ひっああっ！

うああっ！あっんっ、うっふっ、あっあっあっあっ！

おっ、あうっ、はあっ、おっ！あっ！あああっ！

引っ搔くの、やめ……あゝゝっ！？あっ！あっ！あゝゝっ！？

んっ、んうゝゝっ！？ん……っ！あ……っ！

(思わず乳首でイッてしまうフレイ)

あ……あ……いま、なにが、起こった……？

乳首を引っ搔かれる度に身体がビクビクして、胸が熱くなって、身体中に電気が走って……今のがもしかして、イク、というやつなのか？

快楽を感じない、この私が？

……あり、えない。そんなこと、あるはずがない

こんな下衆な王子にイカされるなど、そんなことあつていいはずが……なっ！？

な、何をする！い、いきなり私の身体を持ち上げるな！

どこへ連れて行くつもりだ！

ん……この上に転がれ？そ、それは無理な話だ

これは皆が共に食事をする台であつて、女を寝かすような寝台ではない

それにこの食台は皆と楽しく食事をとるための大事なものだ
あなたの薄汚い欲望が及ぶ場所ではない

私を横にしたいのであれば、空き倉庫の寝台にでも……あつ！？
ちよ、ちよと待て！

どこに手を突っ込んでいる！

そこはスカートの中で……ううんっ！

だ、だから、ここは駄目だ！

先ほどまでは壁にもたれていたからよかったものの、この食台には思い出がつま
で、ああああっ！？

ま、待て、直接触れるな！

さつき乳首を責められたせいで、感覚が鋭敏になって……ああんっ！

ふ、太い指が、私のアソコに入って……あ、あ……あっ！？

い、いきなり二本も、入れおっ
た、だが、そこまでだ

もし指を動かせば、私は魔法を使用する

わ、私が快楽を感じているこの状況は、明らかに異常だ

それはつまり、あなたが私の身体に何らかの仕掛けをしたからに他ならない

そんなことは条件に含まれていなかった

ゆえ 故に、あなたがまた条件を破るならば、こちらもそれ相応の態度を取らせてもら
う

魔法であなたの身体を拘束するなり、痛みを与えるなり、な

それが嫌なら今すぐこの行為を止めることだ

今ならまだあなたを許してやれる

分かったらさっさと指を抜いてもらおう……うんっ！？

お、おい、話を聞いていなかったのか！？

指を動かせば魔法を使用すると言ったんだ！

ぐ、う、この……奥まで、指を……！！

も、もう警告はしたからな

あなたが王子だろうが、遠慮なく魔法を使わせてもらう

私との約束を軽んじたこと、後悔しろ……！！

……………え？

魔法が、発動しない？

な、なぜだ。私は確かに魔法を発動して……！！

ま、まさか貴様、他にも何か仕掛けを……ああんっ！

ま、待て、指を動かすな！

へ、変な場所に当たって、うあああ！

な、中で指が擦れて、刺激が……あつ！あああつ！？

と、止めろ！指を止め……え？

今からこの食卓を、メスの潮と匂いで上書きする？

温かい食卓を、メスの淫らな匂いと愛液でぐちゃぐちゃにしてやるって……

き、貴様、そんなことが許されるわけが……ひああつ！？

そ、そこ擦るなあ！

この、やめ、うあああつ！あああつ！あつ、あつ、んああつ！
ひうつ、うつ、んうつ、んうつうつ！あうつうつうつ！？

あつ！あつ！あああああつ！？

も、やめ、あつはあああああつ！？

うつ、うつうつうつ、な、なにかくる！なにかきてるうつ！

と、とめろおおつ！あつ、うあああああつ！？

おつ、あつ、んうつうつうあああ！

こ、これ以上はだめだ！ほ、ほんとにだめえ！

なにか出る！出ちゃ……んあああああああつ！？

あつ、あつ、あつ、あつ、あんんん！？

うああああああつ！？

し、しお、潮がもれてえ……ひいいいいん！？

て、手をとめろ！も、もついい！もつ充分だ！

これ以上はほんとにやめ……やあああああつ！？

あつ！あつ！あああああつ！

うっ、んっ、んうううっ、うんんんんっ!?!あああああっ!

ま、またもれる、みんなの大切な場所を、汚よじしてしま……あああああああ

あんっ!?!?

あっ!あっ!ああああっ!?!?

あゝゝっ、ああゝゝっ、でて、る、んうゝゝっ!

と、とまらな、ああああゝゝっ!

おっ、おっ、あっ、あっ、んあああゝゝっ!?

ああっ……んっ……おお、あ……あ、はあ……あっ……!!

あ、ああ……あ、ん……わ、わたし、は、なんてことを……んああっ!?

な、なにをする

もう今のでおわり……え?

この食卓しょくたくをメスの匂においで充満じゅうまんさせるまでやめないって、な、なにを言いって……あっ
うんっ!?!?

おっ、おっ、おっ、おあああっ!あっ、あっ、あああっ!
も、もういい!?

ほ、本当にもうやめ、んあああああああっ!?!?

おっ、おっ、おっ、ああああんっ!

あっ、あっ、んっ、ああああああ……!!

4話

ようこそ懺悔室へ

ここはありとあらゆる人間が贖罪を行う神聖な場所

壁を隔てているため互いの素性は明かされず、まっさらな状態で罪を打ち明けることができる

もちろん打ち明けられた話は一切他言しないし、他の誰かと共有することもない

ここはただ迷える者の悩みを聞き、その人物の心のモヤを払う為だけの場所だ

何の遠慮もなく、何の躊躇もなく言葉を述べてもらってかまわない

それで？あなたが打ち明けたいことは何かな

この私が全て受け止めてみせよう

ん、なにに？いま付き合っている人がいる？

ほう、そうか。それは良いことじゃないか

それでそれで？どんな人なんだ

……その人は年上で、気高く優しい姉御肌な人。ふんふん

でも見た目は美しい少女の姿をしていて、いつも美しい赤髪をたなびかせている
毎日子供達の世話をしていて、夜は街を守る魔法少女として活動している……？

ほう、ほう。そうか、魔法少女として、ね

そ、それで？あなたはその人物と付き合っている？

そう、か。そうなんだな、うんうん。よく分かった

よく分かったが……その人物は一体、今日のあなたの贖罪とどう関係しているのかな

是非教えてもらいたいものだ

……ここからが本題？

わ、分かった。心して聞こうじゃないか

あなたの贖罪とやらを、な

えーと……あなたはその人物が大好きで、大変尊敬している

好きなところを挙げればキリがない、と。な、なるほど

気丈なところ、優しいところ、愛情深いところ、頼りになるところ、か、可愛いところ……

も、もう分かった。分かったぞ、うん

そ、それ以上は言わなくていい(赤面しながら)

分かったから、続きを話してくれ

えーと？最近そんな彼女に対して、とある感情を抱いてしまっている？

とある感情、か。はて、それはどんな感情だろうか
ん、なんだ。言いづらいのか？

大丈夫、私は迷える者のためならば、どんな言葉でも受け止める
さあ、言ってみてくれ

……ん？なんだ、今なんと言ったんだ？よく聞き取れなかった
もう一度言ってくれないか

……れつじよう？あなたはここ最近、その人物に対して劣情を抱いてしまっている、
と？

その人物を見ているだけで身体が熱くなったり、ついつい胸元や脚を目で追っ
う、か

大好きな相手に対してそんなことを感じるのは不誠実なのではないか、あなたはそ
う考えていると

なるほど、なるほど。それ故に、あなたはそんなことを考えている自分を戒めたい
と、そう思っているということか

そうなんだな……好きな相手だからこそ、そんなところを見せたくないわけか
そんなことを考えていたんだな、さぞ苦しかっただろう

しかし私個人の考えを述べさせてもらうならば、私は別にそのままでいいのではな
いかと思っている

あなたとその相手は、恋人なのだろう？

だったら、どんな感情でも素直に打ち明けるのがいいのではないだろうか

知らない相手にジロジロと見られるならまだしも、恋人からそういう目を向けられて困る奴はいないと思うぞ、うん

むしろその相手は嬉しい、と思ってるかもしれない

あなたが先ほど言ったことを裏返せば、あなたはその人物に魅力を感じている、という風にも受け止められるからな

だから素直に、感じたことをその相手に言うというのはどうだ

案外、その相手も喜んでくれるのではないだろう……かつ！？

(フレイを膝の上に乗せていたエルスが、ゴム有りで挿入しようとする)

(小声で)お、おい貴様！話し中は邪魔をしないという約束だったではないか！
また約束を違えるつもりか！

そ、それに……ソコは駄目だ

ゴムをしているとはいえ、ソコはあいつを受け入れるための場所なんだ
貴様なんかが侵している場所ではない！

(どうかしたんですか？と主人公に問われる)

あ、い、いや、何でもない！

話に熱中するあまり、つい熱くなってしまうてな

羽織りものを脱いだだけだ

さあ、話を続けてくれていい、ぞ？

……そう、素直にあなたの思いを打ち明けてみる、という話だ

か、仮に私があなたの恋人人として、そういうことを打ち明けられるのは、あまり悪い気はしないが

ここは思いきつて、勇気を出してだな……んっ！？

（小声で）ま、待て！それ以上は駄目だ！本当に入ってしまう！

と、というか、そんなの身体に入らな……あんっ！？

本当に、本当に駄目だ……声が、もれてしまう……！！

（本当に大丈夫ですか！？と主人公がたずねる）

ん、ああ、大丈夫、大丈夫だ……！！

少しばかり、体調が優れないみたいだ。心配をかけてすまない

あ、ま、待て！人は呼んでこなくていい

自分でどうにかできる

そ、それよりも、あなたの相談を中途半端なまま終わらせることの方が嫌だ

あなたの悩みをきちんと解決してから、休憩をとることにする
だから、ほら、話の続きを……ああんっ！？

（挿入が完了し、フレイは自分の口をおさえる）

フツ、フツ………！

だい、じょうぶ。大丈夫だから、相談を続けよう

モヤモヤとした気分のままでは、あ、あなたも身が入らないだろう

あなたの気分が晴れることが、私の幸せに繋がるんだ

だ、だから早く、早く、う………！

（軽いピストンが始まり、子宮口を小突かれる）

ん、んっ、ふっ、ふう、あっ、あっ、ふう………！

そ、そう、あ、あなたは自分の思いを、その相手に、素直に、伝えるべき、だ

そ、そうすることで、きっと、相手も、あなたの思いを、汲んでくれる………！

ゆ、勇気が出ないなら、わ、私が後押ししてやる

だ、だから今晚にでも、思いを打ち明けて、その相手と、き、絆を深めるんだ

そ、そうすることで、きっと、あなたとその相手は、より深く愛し合うことができる

………！

だ、大丈夫。あなたには、私がついてる

だ、だから、何も心配はいらない

さあ、わ、分かったら、行くといい

子供達が、あなたを待つて………あ、あ、んっ！？

（いきなり身体を持ち上げられ、子宮口を貫かれる）

フウ………フウ………フツ………だい、じょうぶ

だい、じょうぶ、だ………！

何の心配も、い、いらない

だ、だから、あなたは、早く子供達のところに行つてやれ……！

わ、私はこれから、休ませてもら、う

あ、ああ、礼^{れい}ならいい

あなたの悩^{なや}みが晴^はれたのなら、それで、良かった
その恋人とも、上手くやるんだ、ぞ

ああ、それじゃあ
また、な

(主人公が出ていき、扉が閉まる)
(フレイはその瞬間机に突つ伏す)

ハア……、ハア……なんとかバレずに済んだ、か
ま、まさかあいつが来るとは、な

よ、予想外^{よそうがい}のことではあつたが、どうにかなつた、か

そ、それにしても貴様^{きさま}、いい加減^{かげん}に……な、なんだ。さっきの男が、私の恋人なのか、
だと？

……あ、ああ、そうだ

貴様とは違^{ちが}つて、清純^{せいじゆん}で、実直^{じつちよく}で、誠実^{せいじつ}な男だ

本当にあなたとは、似^にても似つかない

私にとって本当に大切な、ただ一人の恋人……だっ！？
な、何をする！ 急^{きゆう}に身体を持ち上げるな！

んうううっ！っんぶ、んじゅっ、じゅるっ、んんっ、んじゅっ、うん、んんっ
っ！っ

し、した、舌^{した}はやめろ

そんなキス、あいつとしたことも……じゅるるるるるっ！っ！っ

んんぶっ！じゅぞっ！じゅるっ！じゅるるるるるっ！んぶっ！んんぶっ！
じゅっ！じゅぞっ！んぶうっ！じゅるるる、んじゅうっ！っ！じゅっ！
じゅぼっ！じゅぞっ！じゅぶっ！じゅるっ！んぶうっ！
じゅっ、じゅぞっ、じゅうっ！っ！っ

……ぶあっ！あゝゝ、あゝゝ

な、なにをする……私のくちの中、舌で舐めまわして、蹂躪^{じゅうりゃん}しておってえ……

よ、よだれで、口の周^{まわ}りが、へとべとに……んぶうっ！っ！

んじゅっ、んぶう……ぶ、はあ……

こ、これで心おきなく声出せるなって……そ、そんなことするわけが……やあああ
あああっ！っ

だ、だから、突くなと言っている……シスター達にバレてしまう……

わ、私が声を出さなければいい？

それだけの話だって、そんな、ことお……

な、なに？

これから突き上げてやるから、耐^たえてみろ？

こ、声がおさえられないなら、自分からキスして、声おさえろって……だ、誰がそんなことを……んひいっ！っ！

おっ、おっ、おおっ！あっ！あっ！あっ！あっ！あっ！うっ！うっ！んっ！

やあああ、あんっ！あっ！うっ！うんっ！？あっ、あひっ！

やあっ、やあああっ！おっ！おあああゝ、あっ、あひいっ！

おっ、おっ、おあああゝ、あっ！っ！

こ、声おさえろって、言われても、あゝっ！っ！

だったら自分からキスしろって……そんなのむり、むりに決まって……あうううう
うんっ！

くそつ、くそおつ、こ、こんなの、絶対にいやー！いやなのに、いやなのにいいっ！もう、声をおさえるには、これしか……んじゅううっ！

……ふはっ！じ、情熱的なキスって、こんなの、自ら望んだことでは……んじゅ

し、舌は吸^すうなあ！熱^{あつ}さで、あたまくラク^らク^らしてえ……んじゅうくくっ！？

[illegible]

あ……あ……あたまが、へんに……！へんになる……え？

(キスで口を塞がれる)

40

じゅっ、じゅっ、じゅるっ、じゅうっ！
んぶ、んうっ、んむうっ。ぶあっ！？

(いきなり口を離され、声がもれ出る)

ちよ、ちよって待てーいま口^{くちはな}離されたら、こえが、こえが……あぁうっ！？
あっ！あっ！あぁっ！あぁぁぁっ！？

あぁゝゝっ！？こえでる、こえでちやうっ！？たのむっ、頼むからああ！

口^{くち}ふさいで、口^{くち}ふさいでええ！

シスター達に、きかれ、聞かれちやうからあぁぁっ！

た、頼む！舌^{した}入れてもいいからあぁ！だからふさいでえ！

口^{くち}ふさいで……じゅぞぞおとおおっ！？

んぶじゅうゝゝっ！？じゅっ、じゅばっ、じゅうっ、じゅうっ、じゅうゝゝっ！？

じゅっ！じゅっ！じゅぞぞっ！じゅうっ、じゅぶうっ、じゅぶうっ！

じゅるるるうっうっうゝゝっ！？

(ゴム越しに射精される)

んぶ……ん、ふう……ん、は……んんう……。ぶはあっ！

はぁ……は、ぁ……ぁゝゝ、はぁぁゝゝ、ぁ、ぁうっ……

お、おい、まで

いまは、抜くなぁ……抜くな、ぁ……ぁ、ぁぁぁ……ぁうっ、んっ！？

(引き抜かれ、失禁するフレイ)

うぁぁぁぁゝゝっ！？ぁ、ぁ、ぁぁゝゝっ！？

ひうっ……ぁ、は、ぁううう……ん、ぶ、ううう……！

はぁーっ、はぁぁーっ……ぁ、はぁぁ……ぁっ

ひゅーっ、ひゅーっ……ぶ、ううう……！

5話

ふうー、今日も疲れたな

お前も疲れただろう、顔に疲労が見てとれる

……フフ、無理するな。私の前では取り繕わない約束だろう

私の前では素直に、正直になれ

私はあるとあらゆるお前を肯定してやれるのだからな

……ん、なんだ？ 最近私もひどく疲れているようだから、これ以上負担をかけるわけにはいかない？

そう、か。お前にも気をつかわせていたか

大丈夫だ、何も問題はない……と言いたところだが、正直だいが参っている別に子供達の世話をしているからではないそれは慣れたものだからな

私の疲労の原因はあの王子だ

特に目立った行動をとっているわけではないが、あの男がこの場にいるだけで気を張る必要がある

いくら三日だけとはいえ、この疲労具合は無視できない

それにあの男、明らかに異質だ

あまり具体的には言えないが……普通の人間ではない

魔法使いというわけではなさそうだが、まさかアーティファクトを……？

ん、ああ、大丈夫だ。心配をかけてすまない

いくら奴が異質だといっても、ここに滞在するのはあと一日

明日のいつまでかは分からないが、そこまで耐えてしまえば奴ともおさらばだ

またお前や皆との平穏な日々に戻る

だが、その……なんだ

ここ最近忙しくてお前とシてなかったせいで、その、少々心細くなる時がある

お前と付き合うまではこんなことはなかったんだが、大事な存在ができると、心も
変化するものなんだな

この気持ちを弟子にも向けてやれば良かった

だがまあ今となつては遅いからな

弟子の障害を取り除くことでしかその気持ちを表せないが……あの弟子のことだ

余計なお世話とでも言うのだろうか

だから、この有り余った気持ちはお前にぶつけることにする

ほら、お前の恋人が不安がっているぞ？どうする？

お前はどうかやって私の心の穴を埋めてくれる？

……フフ、そうだ

今すぐ私を……抱け(耳元で話す)

優しく、な

(場面切り替え 事後)

ふう……お前、今日は冗談抜きで凄く良かったぞ

快楽を感じないはずなのに、今回はなぜか全身を満たすような感覚があった

こんな幸福な感覚は初めてだ

これが幸せなのだ、初めて実感した気がする

お前のおかげで何とか明日も乗り越えられそうだ

このまま共に寝たいところだが、裸で抱き合っているところを起こしにきたシスター達に見られるのも、な

とりあえず服を着て、互いのベッドに行くでしょう

とは言っても、ただ単に部屋の右端と左端というだけだがな

ゆっくりと眠り、共に明日……いや、もう今日か

今日を一緒に乗り越えよう

あ、愛しているぞ、こ、恋人、よ

……そんなに真っ赤になるなら言わなければいいのにつて……私の勇気を尊重し

ろ、この馬鹿^{ばか}

お前も真っ赤になってるくせに

……もういい

お休み。良い夢を

おつと、これを忘れるところだった

んー……ちゅ……フフ

おつと、これでは逆に眠れないか？

(場面切り替え 就寝後)

(寝ぼけた感じで)すー……すー……お前、そこはだめ、だ……一体どこに触れて
いる、この馬鹿^{ばか}……

すー……すー……ん、なんだ、くすぐりたい

うん……？んー、んうー……な、なんだ、あ？

だれかいるのか……つて、んふっ！？

(突如アソコをいじられ、目覚めさせられる)

(小声で)な、なん……？……き、貴様^{きさま}、なぜ……んうううっ……？

お、おい、何をしている……ど……をいじつて……あひいっ……

おい馬鹿^{ばか}、やめろー！よ、横に……あいつがいるんだ！

声が、声が聞こえてしま、うあああああ……？

(声がおさえられなくなる)(ううん、あうううん……た、たのむ！

……ここでは、だ、だめだ！

他のところでしてやる、してやるから、……では、あっ、あひっ、うううううううう
っ……うううう……

んあっ！んんっ！んあああああっ！？

あゝっ！？しお、潮しおでてる、でてるからあっ！

もうやめ、あううううううう！？あっ！あっ！あっ！

とめろ、とめろおおっ！手をとめ、ああんんっ！？

あああっ！また潮でる、でるってええ！おっ！おっ！おあああっ！

あんっ！あんっ！も、もうだめ、だめ、だめええ！あゝっ！？

うんんっ！うっ！ううっ！？やあああゝっ！？

あ……っ！あ……っ！ふーっ、ふーっ……んううう！？

はあ、はあ……あ、ああ……な、なぜ貴様が、ここに……！

(小声ではなく普通に話す)ここは、あいつと私の神聖しんせいな場所だ……貴様きさまなんか、

足を踏み入れていい場所ではない……！

するなら、別の場所で……！

え？今日はここでする？最後さいごにここやって、終わりにするって……は、はあ？

ここでする理由はなんだ

なぜこの場所にこだわる

……え？私を恋人から奪うばうため？

恋人の前でメスに墮おとせば、お前も言い訳わけできないだろうって……そ、そんなことが
ありえるものか！

私はいつの恋人だ！何があっても貴様のメスに墮おちたりなどしない！

それより、貴様は条件じょうけんを覚えてるのだろうな！

今回の行為こういが終われば、貴様の奴隷達どれいたちを解放してもらう

それを違^{たが}えるつもりはないのだろうか！？

……よし、その言葉、しかと聞いたぞ

ならば、好きにするがいい

しかし音^{おと}が届かないよう、あいつと私との間に結界^{けっかい}を張^はらせてもらう

そうすれば、あいつに知られることは……な、なに？ 結界^{けっかい}が張れない？

一体どうなって……というか、前にもこんなことが……！

ま、まさか貴様^{げんいん}が原因……なっ！？

そ、それはアーティファクト、か？

見たことがない……まさか、貴様^{きさま}秘匿^{ひとく}していたのか！？

アーティファクトの秘匿^{ひとく}は犯罪^{はんざい}行為^{こうい}だぞ！

王族^{おうぞく}であれ許^{ゆる}されるわけが……なに？

そのアーティファクトの効果^{こうか}は魔力^{まじき}の遮断^{しゃだん}？

外部^{がいぶ}からの魔力^{りゅうにゆう}の流入^{しやだん}を遮断^{ていし}し、魔法^{まほう}を停止^{ていし}させる、だと？

道理^{どうり}で魔法^{まほう}が使えないわけだ……しかし、待て

私の快樂^{しゃだん}の遮断^{しゃだん}は、身体^{からだ}の内側^{うちがわ}の魔力^{まりよくじゅんかん}循環^{しやだん}によって引き起こす

なぜ、私は快樂^{しゃだん}を遮断^{しゃだん}できない？

そのアーティファクトだけでは説明^{せつめい}がつかない……？

おい、ま、待て。その刻印は……呪いの刻印？

あ、ありえない。呪いの刻印は罪人や咎人だけが受けるものであり、その刻印がある時点で世間から弾き出される

なぜ貴様はその刻印を持っているのに、王族としての立場にいられる……？

どういう手品を……っ！ま、まさか……？

そのまさかだつて……貴様……！

……なに？その刻印の効果は、魔力の吸収？

近づけば近づくほど魔力を奪える、だと……？

魔法使い達を堕とすためにその刻印を受け、その罪を奴隷達になすりつけてきたつて……貴様、自分がどれだけ罪深いことをしているか分かっているのか……？

このことが明るみになれば、貴様なんて即座に追放……あああああうっ！？

お、おい、何を勝手に挿れている……て、き、貴様、ゴムはどうした！？

早くゴムをし、あうううううんっ！？中、ぐりぐりするなあ……！

声、でるう……うううううんううっ！

ぐりぐりされると、声が、ううううっ！？

はあ、はあ……こんなこと、絶対に、あいつに知られるわけには……あっ！？

な、なんだ、いきなり私の身体をひっくり返して……何をする気……んひっ！

ちよ、ちよつと待て！なんだその玩具は！

そんなの、お尻に入らな……あつ、ぐうつ、うつ、うつ、ああうつ、あつ、まて……あ
ううつ、うつ！？

あゝうつ、んうつ！

あ、アソコも、お尻も、圧迫されてえ……くる、しい……フーツ、フーツ……！

な、なに……？これから休憩なしで突くから、必死に声おさえろ……？

そうしないとバレルぞって……そんなこと、言われずとも分かって……あああ
っ！？

ふー、ふうー……だ、大丈夫、だ

絶対、声は出さない……貴様のようなクズには、ま、負けない

わ、私は皆を守る最強の魔法少女だ

絶対に……貴様に打ち勝ってみせる！

(場面切り替え バックでガン突きされるフレイ)

あっ！あっ！……ああっ！……おおっ！……あああっ！……んおおおおっ！？
あひっ、おうつ、おおおおっ、あううつ、うん！？
うっ！うん！……おうつ！？

あう、あううつ、うっ！……あゝゝゝゝ！？

ひああゝゝゝ！……ばっく、ばっくヤバいいゝゝ！？

犬みたいに犯されるの、ヤバいつてえええっ！……あゝゝ！？

いぐつ、いぐうつ、いぐうつ、うづ！……？

もういった！……いったからああああっ！

とめてくれええ！……あんっ！……あんっ！……ああああんっ！？

しお、潮出てるつてええええっ！……べ、ベッドでおもらしなんてえ！

ほんとの犬みたいにな、うあんうつ、うづゝゝ！？

くち、ふはいでえー、ふはいでくれえ……んぎじゅっ！んぎじゅるうううっ！
じゅっ、じゅぽっ、じゅるっ、じゅぞぞっ、じゅづううっ！っ！っ！
んぎう、んうう、んぎううううっ！
じゅるっ、じゅるるるるうううっ、ぎじゅづうううううううううう！っ！
じゅぎう、じゅぞぞお……ぎあう！

ううう、あううう……か、壁におしつけられて、イカされるの、ヤバいい……逃げ
場な、いい……！

し、子宮、完全に、おりてきちやったあ……

ていう、か。お尻の玩具、は、早く抜けえ……ずっと圧迫されて、くるしい……え？

ど、どこにつれて行くつもりだ

そ、そっちはだめだ。そっちはあいつのベッドが……だ、だめ、だめだつてええ！

お望み通り抜いてやるって、だめ、だ……

おおおおおおおおおっ！っ？

おっ！おっ！おっ！おっ！

おああああああああっ！っ？

あううう！おううう！っ？

あ、あああ！わ、私は、なんて声を！き、聞かれたあ！

今の汚い声、ぜったい聞こえちゃったああ！

た、たのむ！たのむう！起きないで、起きないでえ……え？

な、なんで、全然気付かないん、だ？

い、いくら寝入っているといっても、いまの声は、流石に……

か、代わりにアーティファクトで結界を張っておいた？

いくら声を出してもこっちの声は届かないって……お、おい、それならそうと、早く
言え

なんのために、ここまで堪えたと思って……なに？

声が届かないということとは、今からいくら助けを求めても誰も助けに來ないって…
…え？

(場面切り替え 主人公のベッドのすぐ横でハメ倒されるフレイ)

あああああ ああ ああ ああ…？

はああああ ああ ああ…？ おっ…！ おっ…！ おっ…！ おっ…？

おっ…！ あんっ…！ ああ…！ おっ…！ おっ…！

うっ…！ んううっ…！ おお おっ…！

あ…！ うっ…！ いぐいぐいぐうううう…！

いぐいぐいぐいぐうううううう…！

うあ あ…！ うっ…？ もうむりいっ…！ むりですからあああ ああ…！

も、もうずっとイキっぱなしだつてえええっ…！ あっ…！ あっ…！ んあああ あっ…！
し、潮とまんないっ、イクのとまんないっ…！

ゆかにおさえつけられたら、逃げ場ないってええ…！

うあああ あ…！ うっ…？ ずっ！ と潮ふいてるううううう…！

とめて、とめてええ…！ たす、け……え…！

ま、魔法少女の名乗り口上を、ちゃんと言えたらとめてやる…？

わ、分かった…！ 言う…！ 言いますからあ…！

よ、よやみにとます、くれないのさんきよ、うううっ…！ き、きぼうかなでるまほっ！
りゅうせ、いっ…？ の、…、…！ きようう…！

くろきぜっ！ ぼうを、あ、あかにそめあげる、しんくのきゅうせいしゅ、うう…！

ま、まほっ！ しゅっ！ じよ！ フレイ、…！ にさん……

エ。ヒローク

あ、ああ、お前か

どうした、私に何か用か？

もしかして急に私のことが恋しくなったか？

なんだ、仕方のないやつだな

それならそうと早く……な、なに？ごまかさないで欲しい？

何のことだ。そんなに真剣な顔をして……

私が一体なにをごまかすと言っただ

悩みがあるなら相談に乗るからって、だ、だからなんなんだ

今日のお前はどこか変だぞ

……変なのは、私の方？

あの男が来てから部屋にこもりがちになったって……そ、そうか？

そんなことはないと思うが

皆、噂してる？あの男が私にひどいことをしたんじゃないかって？

皆が私を心配してるって……そう、なのか

それは、その、知らなかった

なんと言ったらいいか……ええと、その、心配をかけてすまない

その顔を見ると、お前にもたくさん心配をかけてしまったようだな

その、本当^{ほんとう}にすまない

ただ、一つ言わせてもらおうと私はあの男にひどいことなんてされてない

ただ、ちよつと疲労^{ひろう}がたまっているな

そのせいで体調^{たいちよう}を崩^{くず}してしまっていたんだ

シスターやお前の手をわずらわせる訳^{わけ}にはいかなかったからな

それで少し部屋にこもっていたんだが……逆^{ぎやく}に、お前達^{たち}にいらない心配をかけてしまったようだな

あとで皆^{みんな}にも説明^{せつめい}しておく

だから、私のことはもう心配^{だいいじょうふ}なくて大丈夫だ

お前ももう皆^{みんな}のところへ戻^{もど}れ

これ以上、お前に迷惑^{めいわく}をかけるわけにはいかない

お前がこうして来てくれただけで、気分^{きぶん}が一気^{いっき}に楽^{らく}になった

それだけでもう充分^{じゅうぶん}だ

私も後^{あと}から顔^{かお}を見せに行くから、お前は私の言葉^{ことば}を皆^{みんな}に伝^{つた}えてくれ

頼^{たの}んだぞ……ほら、もう行け

また後^{あと}でな

……もう、今^わので分^わかったよな

貴様が^{きさま}いるせいで、皆に^{みんな}迷惑が^{めいわく}かかっているんだ

貴様が^{きさま}契約を^{けいやく}破り、期間が^{きかん}終わった今も度々^{たびたび}訪ねてくるせいで……皆が^{みんな}不安が^{ふあん}つ
ているんだ

いい加減に^{かげん}してもらおう

もう二度と^にここには来るな

この言葉に従^{したが}えないと言うなら、こちらも実力を^{じつりょく}行使させてもらう

魔力が^{まりよく}ほとんどない人間に何ができるって？

フフ、魔法でしか戦^{たたか}えない魔法使いは二流だと、私は弟子に^{でし}そう教^{おし}えてきた

その言葉を実践するまで……んぶじゅっ！？

んぶっ、んううっ、ふっ、ふううっ、うっ、んじゅっ、んっふ、んぶううっ！？んんっ、
じゅぶっ！？んっ！んぶうっ！じゅっ！じゅぞっ！じゅるるるうううっ！？

ぶはあっ！お、おい、いきなり舌いれる、な……あたま、とろける……え？

お、お前こそ今ので理解した^{りかい}だろって？

なにを、だ

前に舌入れた^{まえ}時より、明らかに抵抗が弱^{ていこう}くなってる……？

そ、そんなことはない！

俺との行為が^{おれ}気持ちよくてたまらないんだろって……ふざけたことを言うな！

貴様のようなクズとの行為など、ただの屈辱^{くつじやく}でしかない

な、なに？さつき恋人が来るまで、ぜ、全身愛撫されてヨガってた女は誰だ、だと？
そ、そんなことは知らん！

私とは関係、ない……あ……

(エルスがフレイに反りたったアソコを突きつける)

生意氣言うなら、これで中をぐちゃぐちゃにかき回して理解させてやる……？

まともに言葉話せないくらい犯して、何回いつてもやめずに中出しして、ハメ潮部屋
中に巻き散らすって……な、なに言ってるんだ、貴様

そ、そんなことは、ぜ、絶対に許されない

私にはあいつがいるんだ。弟子だっている

そんな醜態をさらすわけにはいかない……！

うう……！……すりつけるな……！

子宮、よろこんでなんかない……！腰、ヒクつかせてない……！

寝てる恋人の横でやった時、イカされ過ぎてずっと潮吹いてた女が強がるな、だと

……！……！

う、うるさいうるさい……！

そんなのデタラメ……あ……！……？

(低音で)う……う……お……あ……！……！
お……う……う……お……！……！
う……！……！ひゅ……ひゅ……！……！

や、ばい……！……！いれられただけで、トンじゃう……！……！

う……え……？ど、どこに連れて行くんだ

そっちは、出口……なに？私が誰のモノか、ガキに教えてやる？

な、何を言つて……え？お、おい、冗談だろう

ま、まさかそこにいる、のか？

さつき皆の所に戻ったはず……まさか全部そこで聞いて……え？

うそ、嘘だよな

そんなの、ありえるはずが……おおぅっ！？

お、おい、ふざけるなよ。絶対に、絶対に今は駄目だ

今だけは駄目だ

その扉の向こうに、あいつがいるんだろう？

私の、恋人が

あの時とは違うんだぞ？

あいつは起きているし、あのアーティファクトだって使用していないんだろう？

全部、全部聞かれてしまう

そんなの、そんなの……え？

恋人がそこにいようが、この行為自体は否定しないんだって……あ……え？

俺とやるのが当たり前になっている自分を受け入れろ、だと？

そ、そんなの受け入れられるか！

私は、私はいいつの恋人だ！あいつを裏切るようなマネは絶対にしない！

これまでは貴様きさまにいいようにされてきたかもしれないが、今回は違う！

皆を守る魔法少女として、あいつの恋人として、お前との行為では一切感じたりしない！

いいか、絶対ぜったいにだ！

（場面切り替え扉一枚隔てた先でハメ倒されるフレイ）

あゝっ！？あゝっ！あゝっ！あゝっ！あゝっ！ああゝっ！あゝゝゝゝゝっ！？

おっ！うっ！うっ！あっ！
~~~~~

おっ！ほおっ！んああっ！あひっ！おああんっ！

は、はいっ！きもちいい、きもちいいですううっ！

きもちよすぎて、ずっと潮吹しおふいてますうつ！

組み伏せられて犯されるの、きもちよすぎてええ！もう潮とまんないですうつ！

あ、あいつの前で、こんな獣けものみたいな声こえ出すの絶対いやなのに！

イキすぎて、  
勝手<sup>かって</sup>に声出<sup>こえで</sup>るうっ！？

あゝあゝ  
ゝゝゝゝ  
つ！？

プレスやばいってええ！子宮<sup>しきゅう</sup>まで潰<sup>つぶ</sup>されてイキ死<sup>し</sup>ぬってえ！？

あゝあゝあゝあゝあゝあゝつ！？あゝうゝつ！うゝつ！？

あゝゝゝっ！？もうむり、むりですうっ！

も、もうやめっ、やめてくださいいっ！お願いですからあぁっ！

なんでもっ、なんでもしますからっ！

は、はいっ！何<sup>なんじゅつかい</sup>十回でも、中<sup>なかだ</sup>出していいですからっ！

い、いつでも、ど<sup>なかだ</sup>でも中出していいですからあっ！

だ、だから、もうやめ、あ、あゝゝゝゝっ！？

うゝゝゝゝっ！おっ、あっ、ああゝゝゝゝっ！

う、ふう……お、あ……うゝ、ふああ……ふーっ、ふーっ、ん、ふうづー……あっ

す、すまないい……私では、勝<sup>か</sup>てなかつ……おっ！？

フツ、フツ、フツ……！

すまない……すまな、いい……！

了